

④3 古河市斎場火葬棟改築工事

受賞機関 古河市

キーワード 火葬棟改築、再利用可能な仮設火葬炉、
建替えローリング計画

全建賞審査委員会の評価ポイント

既存火葬設備の老朽化と周辺環境改善を目的に火葬棟を解体後、鉄筋コンクリート造2階建ての改築工事を実施。国内初の再利用可能な仮設火葬炉を活用し、本設への転用によるコスト削減を図るとともに、建替えローリング計画で火葬事業を継続し、斎場改築工事では、騒音や振動への対策にも配慮した点などが評価された。

1. はじめに

古河市斎場は、JR古河駅から1.5kmの場所にあり、周辺を低層住宅に囲まれた市街地に立地している。近年の火葬場建替えは、人々の生活圏から離れた山間部などに移転・新築するケースが多いが、本事業では、昭和48年より運営する現地で建替えを行った。

2. 事業の概要

火葬などの施設運用を継続しつつ、狭小な建替用地での事業であったため、「再利用可能な仮設火葬炉」を活用し、一部既存の式場を残しながら段階的に改修工事を行うことで、現地での建替えを実現した。



建替えステップ図



仮設火葬炉

住宅地に囲まれた斎場

設計に当たっては、会葬者の心情に配慮するとともに、近接する住宅地との関係性や日常生活の中に弔いの施設が存在することの意義を踏まえて計画を進めた。

式場については、平成10年に建設されており、耐用年数と構造耐力上問題がないため、解体せず改修し再利用を図った。また、仮設火葬炉棟のRC基礎については、災害時の一時避難スペースとなる広場のタイル張りの下地として再利用するなど、工事費の削減に努めた。



こころのホール

式場棟のロビー

広場

3. 事業の成果

建替えステップにより、改築工事（令和3年9月～令和6年5月）の間中も、約2,600件の火葬業務を休止することなく継続して実施することができた。また、改築したことによってダイオキシン類の排出が削減され、周辺環境への影響が改善された。



竣工後の古河市斎場の外観

4. おわりに

日常生活の中で故人を偲び、身近な人への感謝の想いなど、深い気持ちと向き合うきっかけとなる「マチとつながりところをつなぐ」斎場を目指している。

賛助会員 (株)オカベ、(株)内藤建築事務所、斎藤工事(株)、(株)宮本工業所